

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年5月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104555
法人名	社会福祉法人 城山会
事業所名	グループホーム城山
所在地	鹿児島県鹿児島市長田町32番1号 (電話) 099-219-7211
自己評価作成日	平成30年4月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム城山の魅力は、第一に天然温泉が出ること、また城山の高台にあり、桜島やサマーナイト花火大会が一望できる最高の絶景スポットです。入居者様と散歩に出かける際は必ずといっていいほど立ち寄りお気に入りの散歩コースになっています。

毎日の食事は、手作りの味を大切にし、お節料理やお祝い膳、外出時のお弁当や手作りおやつは、入居者様にとても喜ばれています。他にも、望みを叶える日を設け、馴染みの場所や行ってみたい場所に個別外出支援を行っています。また、新しくドライブの日や六月灯などの行事を設け、外出や楽しむ機会を増やしています。

災害時の対策にも力を入れており、緊急時の食料備蓄や各居室にヘルメットを完備し、地震想定での避難訓練や火災時の避難訓練も法人合同で取り組んでいます。また昨年度からは、町内の防災訓練にも参加し、地域との連携も図っています。

職員の知識や技能の向上の為、毎月勉強会を開催し、法人内外の研修にも積極的に参加しています。

グループホーム城山は、医療法人を母体とし、関連施設サービス、居宅系サービスもあり、地域に密着したサービスを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ ホームは、閑静で自然豊かな住宅地の高台に、同法人の特別養護老人ホームや複数の居宅系サービス事業所と共に設置されており、広い敷地には多種の樹木や草花が植えられ、四季を感じながら平穏に生活できる環境である。各事業所との連携や協力体制は十分に構築されており、常に事業所間の情報の共有が図られ、地域住民との交流を図るイベント開催や職員研修、防災訓練等は一体的な取り組みがされている。

○ 管理者及び職員は、理念に沿って利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いや意向の把握に努め、安全を確保しながら利用者が笑顔に満ちた日々を過ごせるような支援に努めている。「ドライブの日」や「望みを叶える日」を新設し、利用者の希望に添って外出やレクリエーション等、個別の支援も積極的に取り組んでおり、利用者の楽しみとなっている。

○ 管理者は、日常的に職員との信頼関係や協力体制の構築に努め、意向や要望等を把握して業務の改善やサービスの質の向上を図っている。

また、職員のスキルアップを図る研修の受講や資格取得に対しては、法人による経費の助成や勤務体制の配慮が確立されている。管理者は職場内研修の実施や日頃のケアに関する助言・指導に努めると共に、勤務シフトの作成や外部研修の受講には可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念に加え、職員で話し合っ て作った副理念に基づき、各職員が目標を立て日々のケアに取り組んでいる。	法人全体の理念及び地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の副理念を、基本方針やケアの目標等と共にリビングやトイレ等に掲示し、唱和して共有を図っている。職員は日々の目標を設定してケアに取り組んでおり、申し送りやユニット会議、職員会議時に振り返りや意見交換を行って理念に沿った支援の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の行事に参加したり、地域の方がボランティアに来て下さったりする。法人主催の夏祭りやバザーに地域の方を招待している。地域の防災訓練にも参加している。	小学校の運動会や地域の資源ごみ回収、防災訓練等に積極的に参加し、日頃の散歩や買い物、通院時に地域の人々と会話している。法人主催の夏祭りやバザーには多くの家族や地域の人々の参加が得られ、友人知人の来訪、中学生の職場体験、高校生の実習、ボランティア（マッサージや舞踊他）等を積極的に受け入れており、おはら祭りの長田町の踊り連には来園による踊りの披露を受けるなど円滑に交流されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	実習生の受け入れや中学生の職場体験、また学生への認知症サポーターとしての学習推進を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様・ご家族・民生委員・長寿あんしん相談センターの方に参加して頂き、意見交換を行っている。会議での意見を新しい計画の立案に活かしている。ご家族に議事録も送付している。	会議は利用者、家族代表、民生委員、長寿あんしん相談センター職員等が参加して定期的に開催している。ホームの現況や行事、事業計画等の報告を行い、委員からは利用者の食事や外出支援に関する質問や地域の情報、防災に関する意見等が出されている。内容は議事録で共有し、ユニット会議等で検討してサービスの向上や改善に努めており、議事録は閲覧に供するため、常時玄関に設置すると共に家族にも送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員の受け入れや長寿あんしん相談センター・市役所の担当者との連携をとり、助言や指導をいただいている。	市職員には、介護保険更新や各種報告書の提出の他、ホームの運営や利用者の状況に関わる相談等を行って、助言・指導を頂くなど、協力関係を築いている。行政主催の会合や研修会等に積極的に参加し、グループホーム連絡協議会に加入して行政職員や他施設職員と意見交換を行い、また、介護相談員も受け入れて、サービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の毎月行われる身体拘束廃止委員会へ参加したり、グループホーム独自でも研修を行い、職員の理解を深め、スピーチロック含め身体拘束のない安全なケアに努めている。	マニュアルを整備し、身体拘束や権利擁護に関する研修を法人全体及びホーム独自で計画的に実施して共通の認識を図っており、利用者の尊厳やプライバシーを大切に言葉づかいやケアの方法を話し合って実践に努めている。昼間は玄関等の施錠は行わず、外出したがる利用者には一緒に散歩や寄り添いに努めて安全を確保するなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、勉強会を行い職員の虐待に対する意識を高めている。声のかけ方など職員間で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人やグループホームにて権利擁護の勉強会を行い、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書の説明を行い、同意を得ている。不安や疑問点を確認し、理解・納得して頂けるよう努めている。契約時は、必ず職員二人で立ち会い、より細かな説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回介護相談員が来られ、入居者様の意見を聞き助言を頂いている。玄関に意見箱の設置を行っている。第三者委員会にも報告できる体制をとっている。サービス品質向上委員会にて、顧客満足度調査を実施し、意見を反映している。	利用開始時に利用者や家族から意見等を聞き取り、入居後は利用者の意見や思いを日常会話や表情、仕草等から把握に努めている。また、家族とは面会や運営推進会議、イベント時の対話、満足度調査、電話等で気軽に意見を出して貰い、職員全員で対応を検討して改善に取り組んでいる。検討の結果については、本人や家族にも説明して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より職員とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りに努めている。毎月各階・合同会議を行い意見や提案を出す機会を設けている。	管理者は日頃より話しやすい雰囲気作りに努め、業務の中やユニット会議、個人面談等で業務に関する意見や要望、個人的な悩み等を把握し、業務改善やサービス向上に繋げている。勤務シフトや外部研修の参加等は可能な限り職員の希望を反映させると共に、スキルアップや資格取得に対しても積極的に助言する等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則などの見直し、資格取得のための通信講座の助成を行っている。処遇改善手当も支給している。残業も少なく、働きやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や事業所内の研修に積極的に参加し、スキルアップに努めている。また、新人職員の日々の業務や夜勤に同行し、指導する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はある。現在、他施設への訪問を行い、交流を図るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員がご本人との事前面談を行い、要望・悩み等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員が自宅等を訪問し、事前面談を行い、ご家族の要望・悩み等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員が面談し、ご本人・ご家族と話し合いを行った後、職員の意見を聞き、併設施設の管理職や相談員に相談を行い検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と1日を過ごす中で、喜びや達成感を共に感じたり、昔ながらの行事や料理等を職員に教えてくださっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に、買い物や衣替えなどご家族と職員で連携をとっている。また、行事等に参加していただき、お互いの絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所等をご本人・ご家族に聞き、ご家族・職員で連携しながら外出支援に努めている。知人や友人もご家族の了承を得て、面会や手紙・電話の支援を行っている。また、一時帰宅や近隣のドライブなども実施している。	入所前の生活状況を基に、利用者の馴染みの情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って散歩や買い物、一時帰宅、墓参、ドライブ等を家族と協力して支援している。遠方の家族には、「しろやま新聞」で利用者の状況を伝えるなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士で、声を掛け合いながら楽しそうに過ごされている。職員も入居者様の関係を観察し、席の配置等検討している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所時、情報を提供したり面会に行っている。退居されたご家族より相談があれば、必要に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基に、日常の会話や表情などから思いや意向の把握に努めている。申し送りや会議にて情報共有している。さらに、日常の小さなことでもご本人に選択していただくよう心がけている。	利用者の思いや意向を、日頃の関わりの中で理解に努め、申し送りやユニット会議等で共有して最善のケアとなるよう取り組んでいる。その人らしく、生きがいのある生活が過ごせるように、日々の衣服の選択や趣味、外出、レクリエーションの取り組みについても、可能な限り希望に添って個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、担当ケアマネージャーなどから話を聞き、記録に残し、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、ご本人の過ごし方を知り、ご本人のリズムに合わせて出来ることを確認し、共有化している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・ケアマネ・職員で話し合い意見交換を行うことで、入居者様本位のケアプラン作成を心がけている。	本人及び家族の希望や主治医の意見、助言等を把握し、モニタリングやカンファレンス時の意見を基に、具体的で解りやすい介護計画を作成している。ケアの状況は「介護支援経過」「バイタルノート」等で共有し、本人主体のケアの実践に努めている。定期的な見直しに加え状態変化時には計画の修正等を適切に行って、実状に即した支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、食事・水分量・排泄・バイタルや日々の様子などを記録し、変化のあった場合は、ケア会議などの話し合いと共に個々のケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援・緊急時の入院・合同イベントの参加・外出・外泊、ご家族の相談や状況に応じて訪問なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校や商店などなじみの場所に外出できるように支援している。地域の消防署との連携を図ったり、学校の体験学習の受け入れを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医を受診している。往診が多く、主治医とこまめに情報共有をしている。通院もご家族や職員にて対応している。法人の看護師とも連携をとっている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援している。主治医による定期的な訪問診療による治療が殆んどで、通院や他科受診は家族と協力して支援しており、病状や受診結果等は家族にも報告する等、密に連携を図っている。病状や受診結果は「介護支援経過」等で情報を共有し、医療機関との連携体制も構築されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師に相談しながら健康管理の支援を行っている。変化がみられた場合はすぐに報告指示を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、ご本人の情報を医療機関に提供し、職員もお見舞いに行き情報を得たり、ご家族や病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時「看取りに関する指針」でご本人・ご家族の同意を得ている。意向を基に、主治医や看護師、職員で話し合い、可能な限りの支援を行っている。	重度化や終末期のホームの対応は、入所時に本人や家族に指針等で説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族は十分な話し合いを実施して可能な限り希望に添った支援を、家族と協力して取り組んでいる。看取り後はケアの振り返りを実施し、カンファレンスや研修でスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法・AED等の勉強会を行っている。また、緊急時マニュアルを作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て法人全体で避難訓練や消火・通報訓練を行っている。地震時の自主訓練や勉強会も実施し、飲料水や食料の備蓄も確保している。	消防署の協力を得て、年2回夜間も含む火災や自然災害を想定した避難訓練や消火訓練を法人全体で実施し、消防職員による災害に関する講話や消火器等の取扱い研修も行われている。地震対応の自主訓練の実施や報道された災害事例を基に意見交換するなど、日頃から災害対策の認識を深めている。法人全体の協力体制が構築され、地域の防災訓練にも参加して連携を図っている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置や連絡網の整備、ヘルメット、卓上コンロ、ラジオ、食料・飲料水等も備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強会や会議等で適切な声かけができているか確認している。個人的な話などは他者に聞こえない場所で行っている。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報保護については研修の実施で周知を図り、常に配慮したケアの実践に努めている。特に居室への入室や排泄・入浴・更衣等のケアに際しては、尊厳を損ねる言葉や対応を行わないように努めており、また、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。ケアに関する台帳等も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者様と過ごす時間・会話の中で入居者様の希望・関心・好みなど感じ取りながら希望に沿えるよう支援している。洋服やレクリエーションなど、ご本人が選ぶ機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望や体調に合わせて、のんびりした時間を過ごしながらかそれぞれ好きな趣味活動などを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々に合った化粧や服装をされている。馴染みの店で、カットや毛染めをされる。ボランティアの美容師が月に1回来られる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食卓の準備・後片付け等出来ることを一緒に行っている。また、郷土料理や手作りおやつを取り入れたり、寿司の出前を頼むなど食事を楽しんでいただけるよう案を出している。	利用者の好みや形態、栄養バランス、季節感等に配慮し、住民から頂いた野菜等も活用して調理している。行事食や郷土料理、レストランでの外食、寿司の出前、手作りのおやつ、家族との会食等、食事が楽しみなものになるよう工夫し、食材の下ごしらえや食器の片付け等は利用者も楽しみながら行っている。利用者毎に食事の摂取量や水分補給、服薬等を把握し、口腔ケアもプランに沿って適切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食や水分チェック表に記録し1日の摂取量を把握している。トロミや刻みなど、ご本人の食べやすい形態にして提供している。さらに、摂取困難な方には、自助食器の使用や、好みの食材・飲み物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科往診を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、各自に合わせたペースでのトイレ案内を行っている。パット使用の方も、吸収量などご本人に適しているか、毎月のケア会議などで検討している。	利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事の摂取状況や水分補給、運動等も個々に把握しながら便秘の予防にも取り組んでいる。支援に際しては、羞恥心や不安感の軽減に細かに配慮し、各利用者の状態に応じて介護用品・用具の工夫や支援方法等を介護計画に反映させて改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給ゼリーや牛乳などを提供し、家事動作やリハビリ体操、個々に合わせた歩行運動などで身体を動かす機会を設け、自然排便を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間はある程度決めてしまっているが、個々の希望になるべく沿った支援を行っている。週3回程度、温泉浴を楽しんでいただいている。さらに、季節を感じるしょうぶ湯やゆず湯を提供している。	利用者の健康状態を把握し、足浴や清拭も含め週3回の温泉入浴を支援すると共に、排泄の失敗等には即時に清拭や入浴で清潔を保っている。時間や温度、シャンプー等は希望に添って柔軟に対応し、ゆっくりと入浴を楽しめるように配慮している。入浴を渋る利用者には、時間や声掛け等を工夫して本人の意欲を待つように努め、入浴後の水分補給や皮膚疾患の手当等も利用者の状況に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事動作や体操を行い、出来るだけ体を動かして頂いている。午睡の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、主治医より説明を受けている。薬が届いた時点でも、薬剤師からの説明を受ける。変更があった場合は、申し送りや記録に残し、職員全員に伝わるようにしている。いつでも確認できるよう薬のファイルを作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方は洗濯・掃除・料理・裁縫などを自発的にしてくださる。趣味でハーモニカや読書、歌、踊りなどされる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の小学校の行事や地元のお祭りの参加、初詣、花見、外食など行っている。その他、望みを叶える日やドライブの日として、馴染みの場所や行きたい場所をきいて個別の外出支援を行っている。	利用者の外出への意向は日常の関わりの中で把握し、「ドライブの日」や「望みを叶える日」を設けて積極的に外出等の個別支援に取り組んでおり、散歩やドライブ、買い物、通院、一時帰宅等の外出を家族と協力して支援している。また、ホーム全体でも季節の花見や小学校の運動会、地域のイベントなどの外出を計画して、リフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、個人管理して頂いている。入居時、ご本人・ご家族と相談し、お小遣いを金庫にて保管し金銭出納帳をつけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話利用時は、子機を居室に持っていき、プライバシーの配慮を行っている。希望者は、携帯電話を所持している。手紙等も自由に書けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾りつけは、季節感を感じられるものを入居者様と一緒に手作りしている。また、行事の写真を掲示し、入居者様が眺めながら楽しそうに会話している姿がみられる。温度・湿度計設置し、快適に過ごせるよう調節している。	建物全体が余裕ある広さで明るく、リビングにはテーブルセットやテレビ等が利用者の動線や利便性を考慮して設置され、和やかで落ち着いた雰囲気となっている。随所に利用者の作品や写真等が飾られ、清掃や整頓、空調、衛生面にも細かに配慮して気持ちよく過ごせるような環境整備に取り組んでいる。見晴らしの良い園庭には多種の樹木や草花が植えられ、利用者は四季を感じながら日光浴や散歩を楽しむなど、平穏な日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が一人になりたい時は、居室に戻られゆっくりと過ごされる。また、気の合う入居者様同士、リビングのソファなどで寛ぐ姿が見られる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持って来られる方もいる。装飾品等は馴染みの物など希望に応じて配置している。ご家族の協力が得られにくい時は、ご本人と職員で居室づくりに取り組んでいる。	各居室には、エアコン、ベッド、整理タンス、洗面台が備えられ、利用者の意向に沿って清掃等を支援し、滑り止めマットを活用する等、安全で快適な生活の維持に取り組んでいる。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように、使い慣れた寝具や、テレビ、家族写真、小物等を自由に持ち込み、自身の作品も飾って、その人らしい和やかで居心地の良い居室となっている。居室を迷う利用者に対しては解りやすく案内を表示する等の工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや滑り止めマット・テープなどを使用し、入居者様の不安を取り除き、安全な自立支援につなげている。トイレや居室の場所を迷う方には案内板を設置している。毎日リハビリ体操・歩行運動や家事動作を行い、身体機能の維持に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない